

2025年4月7日

株主各位

大阪市中央区城見一丁目3番7号
松下IMPビル25階
クリヤマホールディングス株式会社
代表取締役CEO 小貫 成彦

第85回定時株主総会における質疑応答の概要

3月27日開催の当社第85回定時株主総会における質疑応答につきまして、その概要をご報告いたします。

Q1 PBR1倍以上を目指す為に配当政策と資本政策の見直しが必要ではないか。

A1 2022年4月から東京証券取引所の市場が再編され、資本コストと株価を意識した経営を実行することが求められるようになりました。このような状況の中で当社は100年企業を目指すものとして中期経営計画を発表させていただきました。中期経営計画はAction1とAction2からなり、経営基盤を固めるまでをAction1、投資効果が出てきて発展して行く状況をAction2としています。上場以来、ここまでの内容の経営計画を発表するのは初めてですが、過去に1度だけ2005年に2006年から2008年の経営計画を発表したことがありました。配当政策につきましては、2024年2月に発表させていただいた「連結配当性向30%以上を目標、D/E2.5%以上を目安」とする株主還元方針に則り、2024年12月期は、この水準を達成しました。中期経営計画では、投資について、過去3年間で約60億円であったものを次の3年間で200億円以上に引き上げるとしております。投資による成長を実現し、企業価値を高め、配当を増やして行きたいと考えております。社内では、ROICに加えWACCも試算しておりますが、この場での言及は控えさせていただきます。いずれにしても配当については、安定かつ継続的に配当を出していくことを続けますので、ご理解いただきたく思います。

Q2 尿素事業の現状と成長性についてお聞きしたい。

A2 尿素事業はディーゼルエンジンの排ガス規制に伴うものです。子会社のクリヤマジャパンでは主に建機、農機、商用車のメーカーに販売しております。排ガス規制は日本だけではなく、海外の規制もあります。排ガスの規制そのものは、環境対策の高まりとともに強化される傾向にあると認識しております。研究開発を行ない、新しい規制をクリアする製品を開発し、尿素事業を成長させていきます。また、従来、トラック等の商用車への販売は農機・建機と比べて限定的でしたが、買収を発表したミトヨ社は商用車への幅広い販売ネットワークを有しております。ミトヨ社がグループの一員になることでシナジー効果を発揮し、一貫した供給体制をより強固なものとする事で、尿素事業の発展に努めてまいります。

Q 3 (Q2に関連して) 尿素事業の規模と中期的なビジョンについてお聞きしたい。
欧州ではEV化が進み、ディーゼルから離れると報道があった。

A 3 尿素事業は産業資材事業の中に有ります。産業資材事業の2024年の売上が165億円、その中で尿素事業は32.5%の53億円から54億円の売上があります。
欧州でも全てをEVにシフトするのではなく、動力を必要とする建機や農機はディーゼルエンジンが必要でありますので、まだまだ成長が見込める事業であります。
補足しますと、北米事業ではホースだけではなく、昨年からは建機メーカーに販売する事業(OEM事業)を始めたばかりです。今までの取引先は日系企業が殆どでしたが、北米現地の大手建機会社とも取引を開始して事業を成長させていきます。

ご意見 株主総会でお茶か水のペットボトルを置いてもらいたい。
総会後に懇親会を開催している会社もあるので、開催してもらいたい。

ご意見への回答 今後の参考にさせていただきます。

以 上